令和6年度授業改善推進プラン（校長作成シート）

学校名 西東京市立谷戸小学校

校長名 伊藤 正明

1 調査結果を踏まえた本校の状況

本年度の「全国学力・学習状況調査」（6年生）の結果から、国語では、文章の内容を正確に読み取る力では、全国や都全体の正答率を上回ったことから、高まったと考えられる。また、言語の知識理解や正しい活用の仕方が、正答率が低かったことから課題として捉えている。基礎・基本の充実に力を入れる必要がある。

算数においては、データを活用する力や表やグラフを正確に読み取る力について、全国や都全体の正答率を上回ったことから、高まったと捉えられる。また、計算のきまりや割合の考え方については、全国や都全体の正答率を下回ったことから、定着していないといえる。今後、算数においても基礎・基本の充実に力を入れていく必要を感じる。

2 教員組織等の状況

初任の教員や20代、30代の教員が半数近くを占め、教員の平均年齢(管理職を除く)は42.14歳と若い集団である。若い教員が多いので校内に活気がある一方で、学校全体の教育力をいかに高め、維持していくかは課題である。そのような中で、授業力の向上を図るために、全校で校内研修会を計画的に実施したり、主幹・主任教諭によるOJT研修を月に1～2回実施し、日々の授業や児童理解等に役立つ実践的な研修を進めている。また、校長からは、その時々に応じたミニ研修や教育情報等を提供し、日々の指導に役立てるように指導・助言している。これらの取組みにより、授業力向上に向けた教員一人一人の意識の高まりを感じる。

3 地域の状況

本校の学区は大きな街道やバス通りに挟まれ、西武新宿線田無駅付近から西武池袋線ひばりが丘駅付近までの南北に長い学区である。また、東大農場・演習林やいこいの森公園に隣接し、緑豊かな地域である。学区内には戸建住宅やマンションが多く立ち並び、落ち着いた環境である。保護者・地域は学校に対して大変協力的で、教育に対する意識が高い家庭が多い。

4 前年度までに行った学力向上に係る取組を踏まえた本校の状況

今年度から、「主体的に取り組む児童の育成～探究的な学びを通して～」を研究主題として、校内研究を実施している。昨年度の研究を更に深め充実させるため引き続き総合・生活科を中心に研究を進めている。国司を招聘し3回の研究授業を通して学びを深めてきている。

具体的には、特別支援教室の教員及び専科教員が各分科会に所属する形で、3分科会(低中高学年)を構成し、各分科会がそれぞれ1回(年間で3回)の研究授業を行った。研究協議会では講師を交え、指導案や指導法等について検討した。

5 本校で取り組む学力向上策

本年度は目指す児童像を「地域や社会に関心を持ち、自ら課題を見付け、課題解決に必要な情報を整理・分析し、解決しようとする児童」とし、総合・生活科を通して授業力向上を目指し、年3回の研究授業を中心に、校内研究を進めている。日々の授業では、日常的にICTを活用し、発達段階に応じ児童がタブレット端末を文房具の一つとして利用できるような授業を充実させることで、学びを深め、授業力の向上を目指し子どもたちの学力向上につなげていく。各学年・各教科で作成したICTでの教材は、クラウド上で共有し活用している。